

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	学年・類型	1 年	必修・選択	単位数(週時数)	5
教科書	現代の国語 1 (三省堂) 現代の国語 2 (三省堂) 新編 新しい書写 (東京書籍)						
副教材等	・「現代の国語」準拠 中学必修テキスト国語 1 年 (三省堂版) ・常用漢字ダブルクリア [五訂版] (尚文出版) ・国語便覧 (浜島書店)						

学習の目標	国語を正確に理解し、適切に表現する能力を育成するため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの領域の能力をバランス良く伸ばし、思考力や表現力を高め、想像力を養い、豊かな言語感覚を身に付けます。	
学習の方法	国語は言葉の学習です。よりよい言葉の使い手になるためには、相手や目的、意図、様々な場面や状況などにふさわしい表現をしたり、理解をしたりすることが必要です。そのために、予習として音読や語句調べ、復習としてノートの見直しなどをきちんとこなして授業に臨み、話すことと聞くこと、書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と言葉そのものについて知ることの学習活動に主体的に取り組ましましょう。また、言語感覚を豊かにし、知識を深めるために、本や新聞に親しみ、辞書を積極的に活用することを心掛けましょう。	
評価の基準	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、目的や場面に応じて様々な文章を的確に読み取り、感性をより豊かなものとしている。また、他者との関わりの中で、筋道を立てて考え表現する力や伝え合う力を高め、自分の考えを豊かにしたり深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉が持つ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使うようとしている。
評価の方法	課題、提出物、考査の成績、漢字テスト、学習活動への取組などを、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	1 豊かに想像する 2 わかりやすく伝える 3 ものの見方・感性を養う ・言語事項	・「朝のリラ」を表現に着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を読み取ります。 ・「竜」を読み、場面の展開や登場人物の描写から、登場人物の気持ちの変化を読み取ります。 ・「クジラの飲み水」を読み、段落と段落の関係や筆者の表現の工夫に着目しながら文章の展開を捉え、内容を読み取ります。 ・「空中ブランコ乗りのキキ」を読み、場面ごとの主人公の心情とその変化を読み取ります。 ・「字のない葉書」を読み、内容を引用して紹介し合います。 ・ことばの単位・文節の関係について理解を深めます。 ・音声のしくみとはたらきについての理解を深めます。 ・辞書の使い方や、活字と手書き文字、画数、筆順について理解を深めます。
2 学期	4 論理的に考える 5 古典に学ぶ 6 情報を関係づける 7 読みを深め合う ・言語事項	・「1000円の価値を考える」を読み、文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分けて筆者の意図を明らかにし、要旨を捉える力を学びます。 ・「月を思う心」「竹取物語」では、仮名遣いに注意して音読し、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界観に触れます。 ・「矛盾」では、漢文独特の表現に注意して音読し、故事成語について学びます。 ・「防災に関するデータ」「『みんながいるから大丈夫』の怖さ」から、資料の読み方を学ぶ。 ・「トロッコ」を読み、情景や行動の描写から、主人公の心情の変化を読み取ります。 ・漢字の部首と成り立ちについて理解を深めます。 ・接続する語句・指示する語句についての理解を深めます。 ・効果的な表現技法(比喩・倒置・反復・対句)について理解を深めます。 ・単語の類別・品詞について理解を深めます。
3 学期	8 視野を広げる 9 振り返って見つめる ・言語事項	・「意味と意図ーコミュニケーションを考える」を読んで、必要な情報に着目して文章を要約し、内容を捉える。 ・「少年の日の思い出」を読み、登場人物の言動から、心情の変化を捉えたり、作品の構成の工夫を読み取り、その効果について自分の考えを深めたりします。 ・漢字の音と訓についての理解を深めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	学年・類型	2年	必修・選択	単位数(週時数)	4
教科書	現代の国語2(三省堂) 現代の国語3(三省堂) 新しい書写(東京書籍)						
副教材等	・「現代の国語」準拠 中学必修テキスト国語2年・3年(文理) ・常用漢字ダブルクリア [五訂版](尚文出版) ・国語便覧(浜島書店)						

学習の目標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成するため、「話す・聞く」「書く」「読む」の領域と「言葉の特徴や使い方」の能力をバランス良く伸ばし、思考力・表現力を養い、言語感覚を豊かにします。また、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てます。	
学習の方法	国語は言葉の学習です。よりよい言葉の使い手になるためには、言葉を手がかりとして論理的に考えたり、想像したりする力が必要です。予習として音読や語句調べ、復習としてノートの見直しなどを確実にこなし、授業に臨みましょう。そして、話すことと聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項の学習活動に主体的に取り組ましましょう。また、言語感覚を豊かにし、知識を深めるために、本や新聞に親しみ、辞書を積極的に活用することを心掛けましょう。	
評価の規準	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて、積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。
評価の方法	課題、提出物、考査の成績、漢字テスト、学習活動への取組などを、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価します。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学 期	1 豊かに想像する	・「名づけられた葉」を読み、詩の構成、比喩表現の理解を通して、思いを捉えます。「セミロングホーム」を読み、人物の設定の仕方を捉え、会話や行動から心情変化を読み取ります。
	2 わかりやすく伝える	・「人間は他の星に住むことができるのか」を読み、構成に着目して理解を深めるとともに、わかりやすく伝えるための工夫について考えます。
	3 ものの見方・感性を養う ・言語事項	・現代短歌を読み、リズムや表現方法などの特徴を理解し鑑賞します。 ・漢字の読み書きについての理解を深めます。
2 学 期	4 論理的に考える	・「一〇〇年後の水を守る」を読み、図表の効果を考えながら、筆者の考えを捉え、その事柄について自分の意見を深めます。
	5 古典に学ぶ	・「枕草子」「徒然草」「平家物語」を読み、暗唱しリズムを味わうとともに、風物や情景の捉え方や描き方の特徴を読み取ります。
	6 情報を関係づける	・「共生社会に関するデータ」「自立とは『依存先を増やすこと』」を読み、複数の情報を関連付けて、自分の考えをまとめます。
3 学 期	8 読みを深め合う	・「小さな手袋」を読み、登場人物の言動からその心情を読み取ります。
	7 視野を広げる	・「動物園でできること」を読み、例示の効果に注意しながら、主張を読み取ります。
	5 古典に学ぶ	・「漢詩」を読み、絶句・律詩の構成や対句表現について理解を深め、漢詩の世界に対する興味関心を高めます。
	9 振り返って見つめる 1 豊かに想像する	・「走れメロス」を読み、優れた描写を通して心情を読み取るとともに、小説の表現の工夫や特徴を理解します。 ・「言の森」を読み詩に表れているものの見方や考え方について考え、詩に込められた作者の思いを捉え、言語生活について自分の意見を持ちます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	学年・類型	3年	必修・選択	単位数(週時数)	4
教科書	現代の国語3 (三省堂) 言語文化 (第一学習社) 新編 新しい書写 (東京書籍)						
副教材等	・「現代の国語」準拠 中学必修テキスト国語3年 (三省堂)・L T現代文基本 (浜島書店) ・国語便覧 (浜島書店)・体系古典文法 (数研出版) ・マスター古典1 (啓隆社) ・常用漢字ダブルクリア〔四訂版〕 (尚文出版)						

学習の目標	国語を正確に理解し、適切に表現する能力を育成するため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の能力をバランス良く伸ばし、思考力や表現力を高め、想像力を養い豊かな言語感覚を身に付けます。	
学習の方法	国語力は、「話す・聞く・書く・読む」といった日常の言語活動を豊かにすることにより、高めることができます。日頃から、要点を聞き取り、情報を整理して話す力を身に付けましょう。また、語彙力を高めるために、辞書を積極的に活用し、分からない言葉は、文脈から推測した後すぐに調べる習慣を身に付けましょう。授業中は、意欲的に自分の意見や感想をノートに書き込み、思考力を養いましょう。豊かな心と骨太の知性を育むために、本や新聞を読む習慣を身に付けることも重要です。年間30冊以上の本を読むことを目標としてください。古典に関しては、独特のリズムを体になじませるために、作品の「暗唱」に挑戦しましょう。古典の世界に触れ、味わいましょう。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値を認識しようとしているとともに、読書を通じて自己を向上させ、言葉を適切に使うとしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
評価の方法	課題、提出物、考査の成績、小テスト (漢字・文法など)、学習活動への取組の姿勢や態度などを、「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」「知識・技能」の3つの観点から総合的に評価します。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学 期	1 豊かに想像する	・言葉の効果的な使い方など表現の工夫に注意しながら、詩「岩が」を読みます。
	2 わかりやすく伝える	・「握手」を読んで、場面設定の仕方や登場人物の描かれ方を読み取り、その人物像を的確に捉えます。
	3 ものの見方・感性を養う	・「間の文化」を読んで、論理の展開の仕方に注意して、筆者の主張を読み取ります。 ・俳句のきまりや特徴を理解して、作品の内容を捉えます。 ・場や相手に応じて、話の内容を構成し、話し方を工夫して、「ブックトーク」を行います。 ・漢字の読み書きについての理解を深めます。
2 学 期	4 論理的に考える	・「フロン規制の物語 (杞憂) と 転ばぬ先の杖」のはざままで」を読んで、文章の展開の仕方や、小見出しの付け方について、その意図や効果を捉えます。
	7 読みを深め合う	・社会生活の中から話題を決め、経験や知識を整理しながら、表現を工夫し、説得力ある発言を「パブリックスピーキング」においてします。
	6 情報を関連付ける	・詩の形式を踏まえて「初恋」を朗読し、描かれている思いを捉えます。 ・「故郷」を読み、場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てます。 ・「マンガ 情報の扱い方」「見たい者だけを見る私たち」を読んで、情報の信頼性の確かめ方を理解し、文章を読んで考えを広げ、自分の意見を持ち、互いの発言を生かして自分の考えを深めます。 ・慣用句・ことわざ・四字熟語などについての理解を深めます。
3 学 期	8 視野を広げる	・「私とは何か」を読み、文章を批判的に読みながら、筆者の考えについて理解します。
	5 古典に学ぶ	・語句の使われ方に注意して「坊っちゃん」を読み、表現の仕方について評価します。・和歌に詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取ります。
	日本文学 古文入門	・歴史的背景などに注意して「おくのほそ道」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えます。 ・宇治拾遺物語「児のそら寝」「絵仏師良秀」を読み、古典の文章に慣れ、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを理解します。 ・漢文の響きやリズムに注意しながら「論語」を読み、孔子のものの見方や考え方を捉えます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	現代の国語	学年・類型	4年 (必修) 選択	単位数(週時数)	2
教科書	高等学校 現代の国語 (第一学習社)						
副教材等	「新訂国語図説 六訂版」(啓隆社)、「新訂国語図説 六訂版 学習課題ノート」(啓隆社)、「常用漢字ダブルクリア 四訂版」(尚文出版)、「イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん」(いいずな書店)、「LT現代文2」(浜島書店)、「高校生のための愛媛の文学」(森と出版)						

学習の目標	様々な文章を読み、言葉による見方・考え方を働かせるとともに、言語活動を通して実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることを目指します。また、論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、国語で的確に理解し効果的に表現する力を育成することで、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養います。	
学習の方法	言葉は思考の根本であり、言葉によって私たちはより深く物事を洞察し、理解することができます。重要なことは、思索活動としての言葉を豊かにすること、論理的に言葉を組み立てること、表現方法を学ぶことです。「予習・復習」「授業の受け方」については、授業で配布したプリントを参考にしてください。また、「読書」によって、優れた先人の思想や悩み感じた跡をたどり、教養を深め、多角的な視点を獲得しましょう。図書館に親しみ、毎月3冊を目標に読んでください。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。
	知識・技能	言語文化についての理解を深めるとともに、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	理解編 『『本当の自分』幻想』『羅生門』 表現編 「論理的な表現」「話し方の工夫」 「書き方の基礎レッスン」 論理分析 【対比】【具体と抽象】	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考えます。 ・主人公の行動や心理をもとに場面の展開を正しく読み取るとともに、主人公の心の変化に対する自分の考えをまとめます。 ・論理的に話したり書いたりする方法を理解します。 ・文章を分析的に読み、論理の展開を理解します。
2 学期	理解編 「水の東西」「夢十夜」「現代の『世論操作』」 表現編 「情報の探索と選択」「待遇表現」 論理分析 【事実と意見】【推論】	・文章の論理構成を把握し、筆者の主張を読み取ります。 ・文章から自分が解釈した内容を的確に伝えるための根拠の示し方や説明の方法を考えます。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者が提起する課題を理解します。 ・情報の信頼性や妥当性の吟味のしかたを理解します。 ・文章を分析的に読み、論理の展開を理解します。
3 学期	理解編 「城の崎にて」「日本の労働問題に関わる資料を読み比べる」 「不均等な時間」「法律改正に関わる文章を読み比べる」 表現編 「合意形成のための話し合いを行う」 「社会に対する意見文を書く」 論理分析 【主張と根拠】【主張と反論】	・作品の構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深めます。 ・文章の構造を手がかりに論理の展開を把握し、筆者の考えを正しく読み取ります。 ・複数の文章や資料を関連づけながら内容を解釈します。 ・話し合いの進め方のルールや意見文とはどういうものかを理解します。 ・文章を分析的に読み、論理の展開を理解します。

教科	国語	科目	言語文化	学年・類型	4年 (必修) 選択	単位数(週時数)	3
教科書	高等学校 言語文化 (第一学習社)						
副教材等	「新訂国語図説 六訂版」(啓隆社)、「新訂国語図説 六訂版 学習課題ノート」(啓隆社)、「体系古典文法 九訂版」(数研出版)、「理解を深める核心古文単語 351」(尚文出版)、「枕草子による助動詞ノート」(尚文出版)、「必携新明説漢文」(尚文出版)、「必携新明説漢文ノート」(尚文出版)、「新演習古典アチーブ1」(桐原書店)、「高校生のための愛媛の文学」(森と出版)						

学習の目標	上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、自らがその担い手であるとの自覚をもち、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする態度を養います。その中で、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、ものの見方や考え方を豊かにすることをねらいとしています。	
学習の方法	先人が築き上げてきた伝統や文化を学ぶことで、私たちは豊かな感性と情緒を養うことができます。我が国の言語文化への理解を深めることを通して、思索活動としての言葉を豊かにし、論理的に言葉を組み立てる力や表現する方法を身に付けましょう。「予習・復習」「授業の受け方」については、授業で配布したプリントを参考にしてください。また、「読書」によって、優れた先人の思想や悩み感じた跡をたどり、教養を深め、多角的な視点を獲得しましょう。図書館に親しみ、毎月3冊を目標に読んでください。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。
	知識・技能	言語文化についての理解を深めるとともに、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1学期	日本文学編 古文入門『宇治拾遺物語』 随筆『徒然草』 漢文学編 漢文入門 故事成語『戦国策』	・古典文法を習得し、古語の意味に注意しながら説話や物語を読み味わいます。 ・随筆に描かれた人生観や自然観について考えます。 ・訓読の基本を習得し、話の内容を正しく理解します。 ・訓読に慣れるとともに、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解します。
2学期	日本文学編 歌物語『伊勢物語』 日記『土佐日記』 随筆『枕草子』 古典の詩歌『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 漢文学編 史伝『十八史略』 思想『論語』	・歌物語の特色を知り、登場人物の心情を読み取ります。 ・我が国最初の日記文学を読み、執筆の意図を考えます。 ・随筆に描かれたものの見方や考え方、美意識について理解します。 ・和歌の表現技法を学び、和歌の世界を読み味わいます。 ・漢文の句法や漢文独特の語や表現を習得します。 ・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた人物の考えや論理、人物像を読み取ります。 ・儒家思想と現代との関わりについて考えます。
3学期	日本文学編 軍記物語『平家物語』 近代の詩歌 伝統と文化 漢文学編 漢詩 文章	・口承文学を味わい、人間の生き方について考えます。 ・我が国の伝統文化の一つである短歌・俳句及び現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に表れた情景や作品に込められた思いを読み取ります。 ・漢詩のきまりを理解しよまれた心情や情景を鑑賞します。 ・漢文の名文に触れ、筆者の思想や主張を理解するとともに自分の考えを深めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	学年・類型	5年・人文 (必修)・選択	単位数(週時数)	3
教科書	古典探究 古文編・漢文編 (大修館書店)						
副教材等	「新訂 国語図説」六訂版 (啓隆社) 「読解をたいせつにする体系古典文法」九訂版 (数研出版) 「新版 理解を深める 核心古文単語 351」 (尚文出版) 「精選漢文」 (尚文出版)、「精選漢文ノート」 (尚文出版) 「3ステップオリジナル問題集 新成古典」 (尚文出版) 「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」 (桐原書店)						

学習の目標	古典探究の授業で取り上げる作品は、古文・漢文いずれも古来日本人に親しまれてきたものです。学習を通して現代の日本人の思考・感性がどのように形づくられたかを理解しましょう。また、その時代や社会の特殊性、時代や社会を超えた普遍性を認識し、社会や文化、人間に対する理解を深め、自分の生き方につなげていきましょう。	
学習の方法	古典探究の授業では単語の意味や文法的事項など十分な予習をし、分からないところをはっきりさせて授業に臨みましょう。授業中は、その確認をした上で、投げかけられた問いに対して自分でしっかり考え、また積極的に意見交換しながら、作品の主題に迫っていきましょう。古文単語や文法、敬語表現、漢文句形は正確な読解を助けるものです。繰り返し復習し、身に付けましょう。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典に関する理解や関心を深めようとしている。また、先人のものの見方や感じ方に親しみ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
	思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて内容を的確に捉えたり、作品の価値を考察したりすることを通して、内容や解釈を自分の知見と結び付け、自らの考えを深め、発展させている。
	知識・技能	古典を読むために必要な、言葉の特徴や使い方に関する知識や技能を身に付け、我が国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深める。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	・ 古文 1 説話 ・ 漢文 1 故事・逸話 ・ 古文 2 随筆 (一) ・ 漢文 2 漢詩 ・ 古文 3 物語 (一)	・ 「十訓抄」「今昔物語集」を読み、説話文学の多様性とおもしろさを知るとともに、比べ読みを通して、古典への興味を喚起します。 ・ 「知音」「両頭蛇」を読み、故事成語の意味の成り立ちを理解します。 ・ 「徒然草」「方丈記」を読み、作者のものの見方・考え方について考え、作品に通底する考え方の特色を理解します。 ・ 李白や杜甫の詩を読み、近体詩の形式や表現について理解を深めるとともに、作品に込められた心情を考えます。 ・ 「伊勢物語」を読み、登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解します。
2 学期	・ 古文 4 随筆 (二) ・ 漢文 3 史伝 ・ 古文 5 物語 (二) ・ 漢文 4 文章	・ 「枕草子」を読み、清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わいます。 ・ 『史記』から「鴻門之会」・「四面楚歌」を読み、長い文章を読解する力を養うとともに、様々な人物像を通して人間の生き方についての考えを深めます。 ・ 「源氏物語」を読み、登場人物の人間関係を正確につかんで、それぞれの心理の動きをたどりながら長編物語のおもしろさを味わいます。 ・ 「桃花源記」を読み、作者の社会批判の精神を理解します。
3 学期	・ 古文 6 日記 ・ 漢文 5 思想 ・ 古文 7 物語 (三) ・ 漢文 6 日本の漢詩文	・ 「更級日記」を読み、日記文学の特色を押さえ、物語世界への憧れが少女の心を動かしていたことを理解します。 ・ 儒家、道家、法家の文章を読み比べて、それぞれの思想の特徴をつかみます。また、日本人の考え方に及ぼしている影響についても理解します。 ・ 「大鏡」「平家物語」を読み、歴史物語、軍記物語の特色を理解します。 ・ 我が国の漢詩文の歴史を知るとともに、中国文化との関わりについて考えます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	学年・類型	5年・理数(必修)・選択	単位数(週時数)	2
教科書	古典探究 古文編・漢文編(大修館書店)						
副教材等	「新訂 国語図説」六訂版(啓隆社) 「読解をたいせつにする体系古典文法」九訂版(数研出版) 「新版 理解を深める 核心古文単語 351」(尚文出版) 「精選漢文」(尚文出版)、「精選漢文ノート」(尚文出版) 「3ステップオリジナル問題集 新成古典」(尚文出版) 「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」(桐原書店)						

学習の目標	古典探究の授業で取り上げる作品は、古文・漢文いずれも古来日本人に親しまれてきたものです。学習を通して現代の日本人の思考・感性がどのように形づくられたかを理解しましょう。また、その時代や社会の特殊性、時代や社会を超えた普遍性を認識し、社会や文化、人間に対する理解を深め、自分の生き方につなげていきましょう。	
学習の方法	古典探究の授業では単語の意味や文法的事項など十分な予習をし、分からないところをはっきりさせて授業に臨みましょう。授業中は、その確認をした上で、投げかけられた問いに対して自分でしっかり考え、また積極的に意見交換しながら、作品の主題に迫っていきましょう。古文単語や文法、敬語表現、漢文句形は正確な読解を助けるものです。繰り返し復習し、身に付けましょう。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典に関する理解や関心を深めようとしている。また、先人のものの見方や感じ方に親しみ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
	思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて内容を的確に捉えたり、作品の価値を考察したりすることを通して、内容や解釈を自分の知見と結び付け、自らの考えを深め、発展させている。
	知識・技能	古典を読むために必要な、言葉の特徴や使い方に関する知識や技能を身に付け、我が国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深める。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	・ 古文 1 説話	・ 「十訓抄」を読み、説話文学の多様性とおもしろさを知るとともに、比べ読みを通して、古典への興味を喚起します。
	・ 漢文 1 故事・逸話	・ 「知音」を読み、故事成語の意味の成り立ちを理解します。
	・ 古文 2 随筆(一)	・ 「方丈記」を読み、作者のものの見方・考え方について考え、作品に通底する考え方の特色を理解します。
	・ 漢文 2 漢詩	・ 李白や杜甫の詩を読み、近体詩の形式や表現について理解を深めるとともに、作品に込められた心情を考えます。
	・ 古文 3 物語(一)	・ 「伊勢物語」を読み、登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解します。
2 学期	・ 古文 4 随筆(二)	・ 「枕草子」を読み、清少納言の感性と機知を理解し、宮廷生活のおもしろさを味わいます。
	・ 漢文 3 史伝	・ 『史記』から「鴻門之会」・「四面楚歌」を読み、長い文章を読解する力を養うとともに、様々な人物像を通して人間の生き方についての考えを深めます。
	・ 古文 5 物語(二)	・ 「源氏物語」を読み、登場人物の人間関係を正確につかんで、それぞれの心理の動きをたどりながら長編物語のおもしろさを味わいます。
	・ 漢文 4 文章	・ 「桃花源記」を読み、作者の社会批判の精神を理解します。
3 学期	・ 古文 6 日記	・ 「更級日記」を読み、日記文学の特色を押さえ、物語世界への憧れが少女の心を動かしていたことを理解します。
	・ 漢文 5 思想	・ 儒家、道家、法家の文章を読み比べて、それぞれの思想の特徴をつかみます。また、日本人の考え方に及ぼしている影響についても理解します。
	・ 古文 7 物語(三)	・ 「大鏡」を読み、歴史物語の特色を理解します。
	・ 漢文 6 日本の漢詩文	・ 我が国の漢詩文の歴史を知るとともに、中国文化との関わりについて考えます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	学年・類型	5年・人文 (必修) 選択	単位数(週時数)	3
教科書	文学国語 (筑摩書房)						
副教材等	「新訂 国語図説 六訂版」(啓隆社)・「常用漢字ダブルクリア 四訂版」(尚文出版) 「イラストとネットワークで覚える現代文単語げんたん」(いっずな書店)・「現代文アチーブ3 四訂版」(桐原書店) 「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」(桐原書店)						

学習の目標	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めるとともに、深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力や伝え合う力を伸ばします。書き手や登場人物のものの見方、感じ方に触れ、それについて思考したり想像したり批評したりすることを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることをねらいとしています。	
学習の方法	文章理解や自己表現には、語彙力が不可欠です。意識的、意欲的に取り組み、語感を磨き語彙を豊かにしてください。文学国語の授業では、思考力と判断力、そして表現力を高めます。これらは相互に関連しており、バランス良く鍛えなくてはなりません。授業に主体的に参加し、投げ掛けられた問いに対して真剣に考えたり、級友と意見交換したり意見を書き留めたりすることを通して、力を付けていきましょう。また、文学的な文章の解釈の多様性について考察することは、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることにつながります。現代社会の問題や他教科で学習したこと、新聞や新書で得た知識なども関連させながら、自己を向上させましょう。積極的な読書も大切です。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。
	思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。
	知識・技能	言葉の特徴や使い方についての知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単元	主な学習内容
1学期	第一部 第1章 評論・随想(一) 第2章 小説(一)	・「バイリンガリズムの政治学」を読み、表現の背後に潜む複数の境界線を分析する筆者の視点に注目し、「新たな表現」について考えます。 ・「山月記」を読み、主人公李徴の心情の変化を理解し、さらに小説の虚構性を通して、人間とは何か、私たちはどう生きるべきかを考えます。
	第3章 随想・評論(二) 第4章 随想・評論(三) 第5章 小説(二)	・「実体の美と状況の美」を読み、文化は何を「美」と見なしてきたのか、美意識の中に潜む文化的な基準を歴史上の様々な事例から読み取ります。 ・「記号論と生のリアリティ」を読み、筆者の考え方を踏まえて文学を読み解く方法について考えます。 ・「こころ」を読み、長編小説の全体像と細部との関係を理解します。また、本文の読解を通して、人間観、人生観に自覚的になることで自己と向き合い、人間の心について考えを深めます。
	第6章 随想・評論(四) 第7章 随想・評論(五)	・「論語—私の古典」を読み、『論語』がどのようにして筆者を励ます古典となったのかを読み取ります。 ・「能 時間の様式」を読み、筆者の論旨を読み取って、時間とはどのようなものなのかを考えます。
	第8章 詩歌 第9章 随想・評論(六)	・「サーカス」「永訣の朝」などを読み、詩歌に込められた詩人の思いを感じ取ります。 ・「文学の仕事」を読み、筆者が説く「文学」の役割を柔軟な視点で捉え直すことを通して、人生における「文学」の意義とは何かについて考えます。
	第10章 小説(三)	・「捨てない女」を読み、比喩と想像力が生み出すことばの広がりを味わうとともに、主人公の姿から何が見えてくるのかについて考えます。
	第二部 第1章 随想・評論(一) 第2章 小説(一)	・「小説とは何か」「陰翳礼讃」を読み、筆者独自のものの見方・考え方絵お理解することを通して、我が国の文化的な特質への理解を深めます。 ・「舞姫」「鞆」を読み、「個」と「社会」の対立、異なる立場や価値観のせめぎ合いを読み解くことを通して、自己のものの見方や考え方について考えを深めます。
	第3章 随想・評論(二) 第4章 小説(二)	・「隠れん坊の精神史」を読み、具体例から普遍性を引き出す論法を学びます。 ・「水仙」を読み、小説固有の文体がもつ影響力を味わいます。
3学期	第5章 随想・評論(三) 第6章 詩歌 第7章 小説(三) 第8章 随想・評論(四)	・「無常ということ」「骨とまぼろし」を読み、読者を文章世界に引き込む独創的な表現を味わいます。 ・詩や俳句を読み、それぞれの表現の特色を理解して自己の表現に役立てるとともに、描かれた世界を味わいます。 ・「藤野先生」を読み、歴史的背景や社会状況を踏まえて、登場人物の心の動きを理解します。 ・「チャンピオンの定義」を読み、ことばの力や人とことばとの関わりについて考えを深めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	学年・類型	5年・理数 (必修) 選択	単位数(週時数)	2
教科書	文学国語 (筑摩書房)						
副教材等	「新訂 国語図説 六訂版」(啓隆社)・「常用漢字ダブルクリア 四訂版」(尚文出版) 「イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん」(いっずな書店)・「現代文アチーブ3 四訂版」(桐原書店) 「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」(桐原書店)						

学習 の 目標	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めるとともに、深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力や伝え合う力を伸ばします。書き手や登場人物のものの見方、感じ方に触れ、それについて思考したり想像したり批評したりすることを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることをねらいとしています。		
学習 の 方法	文章理解や自己表現には、語彙力が不可欠です。意識的、意欲的に取り組み、語感を磨き語彙を豊かにしてください。文学国語の授業では、思考力と判断力、そして表現力を高めます。これらは相互に関連しており、バランス良く鍛えなくてはなりません。授業に主体的に参加し、投げ掛けられた問いに対して真剣に考えたり、級友と意見交換したり意見を書き留めたりすることを通して、力を付けていきましょう。また、文学的な文章の解釈の多様性について考察することは、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることにつながります。現代社会の問題や他教科で学習したこと、新聞や新書で得た知識なども関連させながら、自己を向上させましょう。積極的な読書も大切です。		
評価 の 規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。	
	思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。	
	知識・技能	言葉の特徴や使い方についての知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	
評価 の 方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。		

	単元	主な学習内容
1学期	第一部 第1章 評論・随想(一) 第2章 小説(一)	・「バイリンガリズムの政治学」を読み、表現の背後に潜む複数の境界線を分析する筆者の視点に注目し、「新たな表現」について考えます。 ・「山月記」を読み、主人公李徴の心情の変化を理解し、さらに小説の虚構性を通して、人間とは何か、私たちはどう生きるべきかを考えます。
	第3章 随想・評論(二)	・「実体の美と状況の美」を読み、文化は何を「美」と見なしてきたのか、美意識の中に潜む文化的な基準を歴史上の様々な事例から読み取ります。
	第4章 随想・評論(三)	・「記号論と生のリアリティ」を読み、筆者の考え方を踏まえて文学を読み解く方法について考えます。
2学期	第5章 小説(二)	・「こころ」を読み、長編小説の全体像と細部との関係を理解します。また、本文の読解を通して、人間観、人生観に自覚的なことで自己と向き合い、人間の心について考えを深めます。
	第6章 随想・評論(四)	・「論語—私の古典」を読み、『論語』がどのようにして筆者を励ます古典となったのかを読み取ります。
	第7章 随想・評論(五)	・「能 時間の様式」を読み、筆者の論旨を読み取って、時間とはどのようなものなのかを考えます。
3学期	第8章 詩歌	・「サーカス」「永訣の朝」などを読み、詩歌に込められた詩人の思いを感じ取ります。
	第9章 随想・評論(六)	・「文学の仕事」を読み、筆者が説く「文学」の役割を柔軟な視点で捉え直すことを通して、人生における「文学」の意義とは何かについて考えます。
	第10章 小説(三)	・「捨てない女」を読み、比喩と想像力が生み出すことばの広がりを楽しむとともに、主人公の姿から何が見えてくるのかについて考えます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	学年・類型	6年・人文(必修)・選択	単位数(週時数)	3
教科書	古典探究 古文編・漢文編(大修館書店)						
副教材等	「新訂 国語図説」六訂版(京都書房)「読解をたいせつにする体系古典文法」九訂版(数研出版) 「新版 理解を深める 核心古文単語 351」・「精選漢文」・「精選漢文ノート」(尚文出版) 「完成 古典3」(尚文出版) 「過程の演習 新国語問題集 古典編」(啓隆社) 「重要問題演習 古典」(ベネッセ)						

学習 の 目標	古典探究の授業で取り上げる作品は、古文・漢文いずれも古来日本人に親しまれてきたものです。学習を通して現代の日本人の思考・感性がどのように形づくられたかを理解しましょう。また、その時代や社会の特殊性、時代や社会を超えた普遍性を認識し、社会や文化、人間に対する理解を深め、自分の生き方につなげていきましょう。 また、発展的な学習活動を通して、大学入試問題演習にも取り組みます。		
学習 の 方法	古典探究の授業では単語の意味や文法的事項など十分な予習をし、分からないところをはっきりさせて授業に臨みましょう。授業ではその確認をした上で、投げかけられた問いに対してしっかり考え、また積極的に意見交換しながら、作品の主題に迫っていきましょう。古典においても、作品を通して自分の生き方や社会の問題について考えることが大切です。古文単語や文法、敬語表現、漢文句形等は正確な読解を助けるものです。繰り返し復習し、身に付けましょう。		
評価 の 規準	主体的に学習に取り組む態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典に関する理解や関心を深めようとしている。また、先人のものの見方や感じ方に親しみ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	
	思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて内容を的確に捉えたり、作品の価値を考察したりすることを通して内容や解釈を自分の知見と結び付け、自らの考えを深め、発展させている。	
	知識・技能	古典を読むために必要な、言葉の特徴や使い方に関する知識や技能を身に付け、わが国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深める。	
評価 の 方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。		

	単元	主な学習内容
1学期	- 古文 2 随筆 - 古文 3 物語(一) - 漢文 1 故事・逸話 - 古文 4 日記 - 漢文 3 史伝 - 発展学習	・「枕草子」を読み、作者のものの見方・考え方、教養や美意識などについて理解します。 ・「堤中納言物語」を読み、当時の人の生き方や考え方を理解します。 ・「水魚の交はり」を読み、主君と臣下の関係を越えた人と人とのつながりの深さを学びます。 ・「蜻蛉日記」を読み、作者の境遇を確認し、和歌の表現の特色、作者の心情を読み取ります。 ・『史記』から「廉頗・藺相如」を読み、司馬遷の描写力の見事さや人間観、歴史観を知り、人生や運命について考えを深めます。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
2学期	- 古文 5 物語(二) - 漢文 4 文章 - 漢文 6 長恨歌と日本の文学 - 発展学習	・「源氏物語」を読み、登場人物の複雑な心理や作者による人物造形を正しく読み取ることを通して、自分なりの『源氏物語』観を構築します。 ・「古文」「駢儷文」を比較しながら読み、論の展開の仕方や文章の構成法を理解します。 ・白居易の「長恨歌」、その影響を大きく受けたわが国の古典作品を読み、中国文学と日本文化の関わりや日本文化の特質について自分なりの意見を持つとともに、今後も古典に親しもうとする姿勢を養います。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
3学期	発展学習	・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	学年・類型	6年・理数(必修)・選択	単位数(週時数)	2
教科書	古典探究 古文編・漢文編(大修館書店)						
副教材等	「新訂 国語図説」六訂版(京都書房)「読解をたいせつにする体系古典文法」九訂版(数研出版) 「新版 理解を深める 核心古文単語 351」・「精選漢文」・「精選漢文ノート」(尚文出版) 「完成 古典3」(尚文出版) 「重要問題演習 古典」(ベネッセ)						

学習の目標	古典探究の授業で取り上げる作品は、古文・漢文いずれも古来日本人に親しまれてきたものです。学習を通して現代の日本人の思考・感性がどのように形づくられたかを理解しましょう。また、その時代や社会の特殊性、時代や社会を超えた普遍性を認識し、社会や文化、人間に対する理解を深め、自分の生き方につなげていきましょう。 また、発展的な学習活動を通して、大学入試問題演習にも取り組みます。	
学習の方法	古典探究の授業では単語の意味や文法的事項など十分な予習をし、分からないところをはっきりさせて授業に臨みましょう。授業ではその確認をした上で、投げかけられた問いに対してしっかり考え、また積極的に意見交換しながら、作品の主題に迫っていきましょう。古典においても、作品を通して自分の生き方や社会の問題について考えることが大切です。古文単語や文法、敬語表現、漢文句形等は正確な読解を助けるものです。繰り返し復習し、身に付けましょう。	
評価の規準	主体的に学習に取り組む態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典に関する理解や関心を深めようとしている。また、先人のものの見方や感じ方に親しみ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
	思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて内容を的確に捉えたり、作品の価値を考察したりすることを通して内容や解釈を自分の知見と結び付け、自らの考えを深め、発展させている。
	知識・技能	古典を読むために必要な、言葉の特徴や使い方に関する知識や技能を身に付け、わが国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深める。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	・古文 2 随筆 ・漢文 1 故事・逸話 ・古文 4 日記 ・漢文 3 史伝 ・発展学習	・「枕草子」を読み、作者のものの見方・考え方、教養や美意識などについて理解します。 ・「水魚の交はり」を読み、主君と臣下の関係を越えた人と人とのつながりの深さを学びます。 ・「蜻蛉日記」を読み、作者の境遇を確認し、和歌の表現の特色、作者の心情を読み取ります。 ・『史記』から「廉頗・藺相如」を読み、司馬遷の描写力の見事さや人間観、歴史観を知り、人生や運命について考えを深めます。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
2 学期	・古文 5 物語(二) ・漢文 4 文章 ・漢文 6 長恨歌と日本の文学 ・発展学習	・「源氏物語」を読み、登場人物の複雑な心理や作者による人物造形を正しく読み取ることを通して、自分なりの『源氏物語』観を構築します。 ・「古文」「駢儷文」を比較しながら読み、論の展開の仕方や文章の構成法を理解します。 ・白居易の「長恨歌」、その影響を大きく受けたわが国の古典作品を読み、中国文学と日本文化の関わりや日本文化の特質について自分なりの意見を持つとともに、今後も古典に親しもうとする姿勢を養います。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
3 学期	・発展学習	・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	国語探究	学年・類型	6年・人文 必修・選択	単位数(週時数)	2
教科書	高校生のための愛媛の文学 (森と出版)						
副教材等							

学習の目標	(1) 作品に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わう。 (2) 文章に表れた思想や感情を的確に読み取り、生活や人生について考える。 (3) 郷土の文学作品を読むことを通して、愛媛の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって文学に親しむ態度を養う。	
学習の方法	様々な時代やジャンルの郷土の文学作品を教材として学習します。郷土の文学作品について知識や理解を深めるだけでなく、音読や発表を通じて作品を体感したり、意見交換をしたりします。また、上記の学習の発展的な学習活動として大学入試問題演習にも取り組みます。	
評価の規準	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。
	話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。
	書く能力	相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。
	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。	

	単元	主な学習内容
1学期	【古典文学】 地名の起こり 伊予の湯をめぐって 戦乱の世に 【近・現代の散文】 『「自分の木」の下で』 『がんばっていきまっしょい』 『坊っちゃん』 【近・現代の韻文】 愛媛ゆかりの俳人	- 古事記を読んで、地名や道後温泉にまつわる話について理解を深めます。また、音読や読解を通して、軍記物語を読み味わいます。 『「自分の木」の下で』を読み、多面的なものの見方を養います。また、「がんばっていきまっしょい」と「坊っちゃん」を読み、愛媛の方言の特色について話し合います。 - 愛媛ゆかりの俳人と作品について各自発表します。
2学期	【古典文学】 各地に残る不思議 人生が変わるとき 【近・現代の散文】 『世界の中心で、愛を叫ぶ』 『病牀六尺』 ・発展学習	- 作品を読んで、昔の人と私たちの、人としての変わらぬ思いについて考察します。 - 朗読を通して『世界の中心で愛を叫ぶ』を読み味わい、映像作品との比較も行います。また、『病牀六尺』を読み、正岡子規の心情に迫ります。 - 大学入試問題演習を行います。
3学期	・発展学習	・大学入試問題演習を行います。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	学年・類型	6年・理数 (必修) 選択	単位数(週時数)	2
教科書	文学国語 (筑摩書房)						
副教材等	「新訂 国語図説 六訂版」(京都書房) 「常用漢字ダブルクリア 三訂版」(尚文出版) 「イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん」(いっずな書店) 「完成現代文 3」(尚文出版) 「重要問題演習 現代文」(ベネッセ)						

学習 の 目標	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めるとともに、深く共感したり豊かに想像したりする力、創造的に考える力や伝え合う力を伸ばします。書き手や登場人物のものの見方、感じ方に触れ、それについて思考したり想像したり批評したりすることを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることをねらいとしています。		
学習 の 方法	文章理解や自己表現には、語彙力が不可欠です。意識的、意欲的に取り組み、語感を磨き語彙を豊かにしてください。文学国語の授業では、思考力と判断力、そして表現力を高めます。これらは相互に関連しており、バランス良く鍛えなくてはなりません。授業に主体的に参加し、投げ掛けられた問いに対して真剣に考えたり、級友と意見交換したり意見を書き留めたりすることを通して、力を付けていきましょう。また、文学的な文章の解釈の多様性について考察することは、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることにつながります。現代社会の問題や他教科で学習したこと、新聞や新書で得た知識なども関連させながら、自己を向上させましょう。積極的な読書も大切です。		
評価 の 規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。	
	思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。	
	知識・技能	言葉の特徴や使い方についての知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	
評価 の 方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。		

	単元	主な学習内容
1学期	第二部 第1章 評論・随想(一) 第2章 小説(一) 発展学習	・「小説とは何か」を読み、架空の物語である「小説」が読み手に実体験のような感銘を与えるのはなぜか、筆者の主張を踏まえて考えます。 ・「舞姫」を読み、豊太郎とエリスの間に何があったのか、語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を味わいます。また、既習の夏目漱石「こころ」と読み比べることを通して、「明治」という時代の特徴について、自分なりの意見を構築します。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
2学期	第5章 随想・評論(三) 第8章 随想・評論(四) 発展学習	・「無常ということ」を読み、筆者の心の動きや思考の進行を丹念に読み取りながら、筆者の言う「無常ということ」について、自分なりの意見を構築します。 ・「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」を読み、筆者の考えを論の展開に即して正しく読み取るとともに、人間はどのように他者と向き合って社会を営んでいくべきか、理屈では解けない未来へと続く難題について、自らの考えを深めます。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
3学期	・発展学習	・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。

令和7年度 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	学年・類型	6年・人文 (必修) 選択	単位数(週時数)	3
教科書	探求 論理国語 (桐原書店)						
副教材等	「新訂 国語図説 六訂版」(京都書房) 「常用漢字ダブルクリア 三訂版」(尚文出版) 「イラストとネットワーキングで覚える現代文単語げんたん」(いっずな書店) 「完成現代文 3」(尚文出版) 「重要問題演習 現代文」(ベネッセ) 「過程の演習 新国語問題集 第54集 現代文編」(啓隆社)						

学習 の 目標	論理的な文章を読むことを通して、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。また、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。生涯にわたって読者に親しみ自己を向上させようとする姿勢、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることをねらいとしています。		
学習 の 方法	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあります。論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしましょう。論理国語の授業では、論理的、批判的に考え判断する力を伸ばすとともに、創造的に考える力や表現力を高めます。これらは相互に関連しており、バランス良く鍛えなくてはなりません。授業に主体的に参加し、投げ掛けられた問いに対して真剣に考えたり、級友と意見交換したり意見を書き留めたりすることを通して、力を付けていきましょう。現代社会の問題や他教科で学習したこと、新聞や新書で得た知識なども関連させながら、自己を向上させましょう。積極的な読書も大切です。		
評価 の 規準	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重してその能力を向上させようとしている。	
	思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において、言語活動を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高めて、自分の考えを深め発展させている。	
	知識・技能	言葉の特徴や使い方についての知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	
評価 の 方法	上記の観点を踏まえ、定期考査、出席状況、学習活動への参加の姿勢、授業態度、提出物、課題等を総合的に判断して、評価を行います。 年間の学習状況の評価は、第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して、年間の学習成績とします。		

	単 元	主 な 学 習 内 容
1 学期	論文を読む —文学と人間 Ⅰ部 評論Ⅴ Ⅱ部 評論Ⅳ 発展学習	・「ベルリンの「内」と「外」—「舞姫」を通じて」を読み、ベルリンの街の構造が「舞姫」の中でもつ意味をつかみます。また、筆者の主張を読み取り、既習の「舞姫」の理解を深めます。 ・「「である」と「する」こと」を読み、筆者の論理の展開を正しくつかむことを通して、現代社会についての認識を深めます。また、社会の一員として、自己のあり方を考えます。 ・「ポストモダンと排除社会」を読み、現代社会の姿を急速に進む情報化社会の側面から考察します。また、筆者の指摘する現代の諸問題について、自分なりの解決策を考えます。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
2 学期	Ⅱ部 評論Ⅱ 近代を見つめる 発展学習	・「市民社会化する家族」を読み、家族の有り様の歴史的変化をつかみます。また、家族を資本主義というフィルターを通して見るという筆者のものの見方に学び、自らの身近な問題に対して新しい視点から見直し、自分の考えを構築します。 ・「日本文化私観」を読み、日本の近代について自らの考えを深めます。 ・既習の評論について筆者の主張を比較したり、複数の評論を読み比べたりすることを通して、多角的なものの見方や考え方を養います。 ・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。
3 学期	・発展学習	・大学入試問題演習を通して、読解力、記述力を高めます。

